

九州ゴルフ倶楽部八幡コース

倶楽部の歴史 History

コース設計	加藤 俊輔
クラブハウス設計	黒川紀章建築都市設計事務所
開場	平成4年10月4日
PAR	72 (OUT36, IN36)
距離	7020 y
コースレイティング	73.6
グリーン	ベント



地中から現れた“神からの贈り物”が予期せぬ良いホールをつくる。——— 加藤 俊輔

コースを設計する場合、設計家は地形図を読み込み、現地を下見し、それからコースの本格的なレイアウトを考えていく。しかし事前調査で分かるのはコース上の地表面であり、地下までを完全に掌握することはできない。従って土工事の途中で予想さえしないものが地中から現れることがあり、その障害によって当初の設計を変更せざるを得ないことが少なくない。ケースとしては極めて少ないが、願ってもいなかった場所に岩石が突然現れて、それがビューアップのための効果的なアクセントとなる例もある。

代表的な例が九州ゴルフ倶楽部八幡コース10番ホールと17番ホール（大会使用：1番・8番）の間に出た岩石である。10番ホールのセンターラインから左へ40メートルの位置、そして折り返してくる17番ホールの左ドッグレッグしたコーナー内側の位置に、まるで神が私の願いをかなえてくれたかのように地中から現れた。プレーヤーの打ったボールが、高い確率でぶつかるような岩石なら、私はためらいなく取り除いたと思う。しかし、攻撃的なプレーをするゴルファーには邪魔になる石だが、通常は邪魔にならない。しかも高さといい、幅といい、形といい、位置といいもし意図的に岩石をセットするならそういったセットの仕方をするはずだという形で現れたから、私は驚きと同時にそのまま取り除かずに出るに任せたのである。

事情を知らない人は、もともと露出していた岩石を利用しながらホールをレイアウトしたと考えるだろう。しかし、私は最初に描いた図面に手を加えていない。図面に予定した高さまで切り下げていったら、たまたま絶好の位置に岩石が現れたに過ぎない。いまではこのホールは、ビューバランスの点でもメモリビリティの点でも、このコースを代表するホールになっている。

このように、コースを設計していると、思いがけない贈り物が設計の手助けをしてくれて、たくまずして素晴らしいホールがつけられることがあり、設計者に喜びと感動を与えてくれることもあるわけである。

(参考文献：A Good Golf Course Merges Into The Nature SHUNSUKE KATOより)

コース設計 加藤 俊輔 プロフィール

1933年東京生まれ。
1986年カトーインターナショナルデザイン(株)を設立。
「自然から得たものは自然に帰す」が設計ポリシー。
日本のゴルフ場設計界の牽引役としてまた日本ゴルフコース設計者協会初代理事長としてゴルフ場設計家の育成を目指し、ゴルフ会発展に尽くす。



九州ゴルフ倶楽部八幡コース クラブハウス設計



“環境と建築の共生”
(黒川紀章建築都市設計事務所)

北九州市の中核である小倉駅周辺から15分以内、小倉市街地に隣接する丘陵地に位置し、まさに都市型の余暇、市街地隣接ゴルフの典型的な環境といえる中で、都市における日常生活と余暇の過ごし方、市街地隣接の自然環境との接し方に注目して「都市生活との共生」、「自然との共生」をコンセプトに設計した空間設計、施設配置を行った。

クラブハウス外観は、コース側のファザードにミラーガラスのカーテンウォールを用いた。これは自然環境とコースを写し、建築物を周囲の自然環境の中に同化させ、自然との共生を促進させたものである。設計作業の段階では、ゴルフコースに面してミラーガラスを用いることによって反射光による障害が発生しないように各方面からのシミュレーションを行い、ガラス面を8度前傾させることで、景観を十分に写し、かつ、四季を通じて太陽の反射光がプレーに影響が及ぼさないようにした。

内部空間は、周囲の自然とゴルフコースの景観を建物の中にまで十分に取り込み、外部環境との連続性に配慮したインテリア空間とした。エントランスホールに入るとコース側の景色を一望することができ、ハウス内部の各施設を角度方向を変えて眺めることができる。また、コース側に広大なガラス面を設けることで、外部空間が内部空間の一部であるかのような錯覚を起こさせる、そのように相互が連続する一体感のあるゆったりとした空間とした。

(参考文献：建築の詩、新建築68より)

クラブハウス設計 黒川 紀章 プロフィール

1957年京都大学建築学科卒。
1964年東大大学院博士課程修了。

受賞歴：

国内・高村光太郎賞(1965)、毎日芸術賞(1978)、日本建築学会賞(1990)、建築業協会賞(1977 以後7回)、公共建築優秀賞(1988 以後2回)、日本芸術院賞(1992)

海外・フランス建築アカデミー・ゴールドメダル(1986)、米国リチャード・ノイトラ賞(1988)、第5回世界建築ビエンナーレグランプリ・ゴールドメダル(1989)、王立オーストラリア建築家協会賞(1989)

アメリカ建築家協会名誉会員
英国王立建築家協会名誉会員
ブルガリア建築家協会名誉会員
フランス建築家協会正会員